



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	まえがき( fulltext )
Author(s)	出口,利定
Citation	国際中等教育研究 : 東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究紀要(5): [0]-[0]
Issue Date	2012-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/130554">http://hdl.handle.net/2309/130554</a>
Publisher	東京学芸大学附属国際中等教育学校
Rights	

## まえがき

校長 出口利定 (Toshisada Deguchi)

2007年(平成19年)に開校した東京学芸大学附属国際中等教育学校は、今年度で5年目を迎えました。前期課程(中学課程)の3学年までと、後期課程(高校課程)の2学年までが揃ったこととなります。このことは一方では、我が国の帰国生教育の魁であり、その教育全般について多大な貢献をしてきた東京学芸大学附属高校大泉校舎が今年度を以て輝かしい38年の歴史に幕を閉じることも意味しています。この附属高校大泉校舎で培われた財産は、同じ国際中等教育学校へ引き継がれることと思います。

本校の特色は、国際バカロレア機構(IB)が提供する世界標準カリキュラム「ミドル・イヤーズ・プログラム」(MYP)を実施しているところにあります。2010年(平成22年)に、本校は国際バカロレア機構から、学校教育基本法に定められた「一条校」としては国内初の学校単位でIB校として認定されました。この認定を受けるまでは、決して平坦な道のりではありませんでした。認定を受けるため教職員は膨大な時間を費やし、新しい組織編成のための財政基盤の確立、カリキュラム編成、特に日本の学習指導要領とMYPとの整合性や学習評価規準についての検討は、時には厳しい議論もありました。国内にモデルとすべき前例がないが故に苦しむなか、本校が新しいモデルを創ろう、という熱い決意もありました。今年度は、文部科学大臣をはじめ、各国大使館、国内中高一貫校、国立大学附属学校などから多くの視察があり、そのなかで既にIB校認定のための準備委員会を設置した学校が数校あります。

本紀要に掲載された各教科の授業実践記録、カリキュラム開発、オリジナリティーの高い教材開発等についての研究報告には、共通する一本の柱があります。それは、教科を超えた関連を見いだし学習をより深化させること、社会とのつながりを意識した「実践的な知」を目指す授業づくりがねらいとなっていることです。これは「21世紀を生き抜く学力」への転換を意識したものであり、MYPの教育理念の実践ともいえます。

また、本校は形態が中高一貫校であり、当然ながら前期課程と後期課程との「つながり」を意識した学習のあり方が大きく注目されます。しかし各学年で帰国生の編入もあり、「つながり」という面では新しい課題も見出されています。新しい教育的試みには、予期しなかった様々な課題が後から後から噴出してきます。一つ一つ解決しながら、真の「国際」とは何か?を教職員一丸となって追及していく所存です。